

遠くを想い 手紙を綴る



支える貢献

子どもの頃に憧れた、サッカーでのゴールや、野球でのホームラン。どのスポーツにある「花形」と言われる立場や、そのプレーは多分そのスポーツを好きな子どもたちにとっては憧れるもの。

今でもやっぱりサッカーや野球を観戦する時にその瞬間は盛り上がるけれど、子どもの頃よりも見ようになつたのは、そんな華やかな部分だけでないチーム全体のプレー。

高校通算140本ものホームランを打つて、アメリカの名門大学に進学した佐々木麟太郎選手は、自室に「貢献こそ活躍」という言葉を掲げて、自分が得意な「ホームランを

人揃えても、ストライカーを11人揃えても勝てるわけではなく、勝つためにはそれぞれの役割がどれも大事になるものです。

時にはホームランバッターが打つこと以外でチームの勝利に貢献することも。

打つこと」に捉われず、チームが勝つためのプレーを心がけているそうです。ときには怪我の恐れのあるデッドボールを受けることさえチームへの「貢献」と考える佐々木選手。誰よりもスポットライトを浴びるプレーができる能力を持つていてる選手の、チームを支えるプレーを選択する姿勢を見ると「花形」ではない、チームを支える仕事の大切さ

届かない距離

それでもやはり、遠さは人にとって届かない距離にあるものは、人の心にさまざまな感情を呼び起す。雪化粧した山の稜線を眺めれば、胸の奥に静かな広がりが生まれ、夜空の星々を見上げ

遠さとは何だろう。手を伸ばしても届かない距離にあるものは、距離、もう戻れない過去、その隔たりを思うと胸が締め付けられる。遠さとともにある。大切な人との展望台から眺める遠くに光る夜景

遠さとは何だろう。手を伸ばしても届かない距離にあるものは、人の心にさまざまな感情を呼び起す。雪化粧した山の稜線を眺めれば、胸の奥に静かな広がりが生まれ、夜空の星々を見上げれば、言葉にならない静かな感動がこみ上げてくる。けれども、同じ遠さが時に寂しさや不安を連れ

遠さとは何だろう。手を伸ばしても届かない距離にあるものは、人の心にさまざまな感情を呼び起す。雪化粧した山の稜線を眺めれば、胸の奥に静かな広がりが生まれ、夜空の星々を見上げれば、言葉にならない静かな感動がこみ上げてくる。けれども、同じ遠さが時に寂しさや不安を連れ

遠さとは何だろう。手を伸ばしても届かない距離にあるものは、人の心にさまざまな感情を呼び起す。雪化粧した山の稜線を眺めれば、胸の奥に静かな広がりが生まれ、夜空の星々を見上げれば、言葉にならない静かな感動がこみ上げてくる。けれども、同じ遠さが時に寂しさや不安を連れ

感想・体験談

次回発送日は9月29日の予定です。送りたいお手紙がある場合は26日までに事務局に到着するごとに郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。これは発送時間に合わせるための目安ですので、ご自身のペースを大切にしてください。

次回発送日

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも新規の方に届けます。送りかねて下の手紙に貼り宛名を書くだけです。宛封下まであります。郵便局に「風船便を受取った方へ」と書いて、あ事返にい。な始めに、の筒さで流します。郵便局用封今いまります。

